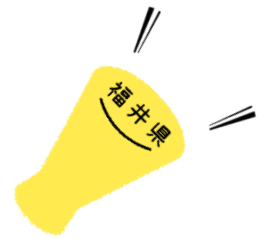


令和8年8月

ふくいの子ども・子育て応援団 ハンドブック



ふく育県

《ふくいのこども・子育て応援団》

✎ <u>自助グループ「ゆっくり」</u>	1
✎ <u>子ども・地域食堂 S m i l e</u>	2
✎ <u>嶺南スペシャルニーズチルドレン家族会</u>	3
✎ <u>福井多胎ネット</u>	4
✎ <u>越前市「みんなの食堂」</u>	5
✎ <u>一般社団法人DAISUKI</u>	6
✎ <u>ASTRAIS（アストライズ）</u>	7
✎ <u>ご縁の入口</u>	8
✎ <u>ちいさな学校ヒトツナガリ</u>	9
✎ <u>坂井子どもの里</u>	10



摂食障がいピアサポート
自助グループ「ゆっくり」
(代表 林 美紀)

団体概要

設立2014年（活動13年目）

摂食症の当事者・家族が、孤立せずに安心してつながれる居場所づくり
「一人で抱え込まない社会」を目指し、当事者・家族・医療・福祉・
教育・地域をつなぐ活動
自助会・家族会・めぐるカフェ・個別相談・オンライン自助会・講
演・普及啓発など

主な活動内容①



若年層及びその周囲者、子育て世代でも
参加しやすい自助活動の普及事業

「誰にも相談できない」をなくしたい

- ・10代も参加しやすい居場所づくり
- ・オンライン自助会
- ・家族・パートナー向け交流会

参加者の声

- 💡 初めて安心して話せました。
- 💡 一人じゃないと思えました。
- 💡 気持ちが軽くなりました。

主な活動内容②



若年層及びその周囲者、子育て世代でも参加
しやすい自助活動の普及事業

ホームページ・リーフレットをリニューアル

- ・見やすく、必要な情報が伝わる内容へ改善
- ・若年層や家族が相談先を見つけやすく工夫
- ・安心して相談できる内容に見直し
- ・個別相談につながる方が増え、早期支援につながっている

今後の活動展開

課題

- ・相談につながるまで時間がかかる
- ・若年層へ情報が届きにくい
- ・地域で支える仕組みがまだ十分ではない

今後力を入れた取組

- ・10代・若年層が安心して参加できる居場所づくり
- ・家族や保護者への支援・相談機会の充実
- ・オンラインを活用し、県内全域から参加しやすい環境づくり
- ・医療・福祉・教育・行政・地域との連携を深め、早期相談・早期支援につなげる活動

県内のこども・子育て当事者に向けて一言！

つらい時や苦しい時、一人で抱え込んでしまうこともあると思います。そんな時は、安心して話せる人や居場所があることを思い出していただけたら嬉しいですよ。

私たちは、あなたの気持ちを大切にしながら、あなたのペースに寄り添って歩んでいきたいと思っています。

自助グループゆっくり

子ども・地域食堂 Smile

代表 藤井 麻美

団体概要

令和8年1月 父母が営んでいたホテルを事業承継
小浜駅から徒歩3分という立地を生かし、子どもから高齢者まで誰もが気軽に集える地域の居場所づくりを目指して事業を開始。

子ども食堂:毎月第2木曜日 16時～19時/対象:小学生～高校生(子ども:100円)

Smile食堂:毎月最終日曜日 12時～15時/対象:幼児から高齢者まで誰でも



子ども食堂①



(みんなで育む居場所づくり)

地域の方や企業の皆さまから寄付して頂いた食材を活用し、ワンプレートの夕食を囲んだり、みんなでおにぎりを作ったりしながら、食事を楽しんでいます。また、高校生ボランティアがお姉さん役として子ども達に寄り添い、一緒に遊んだり勉強を教えたりと大活躍しています。食後はオセロやおしゃべりを楽しみ、それぞれが思い思いの時間をゆったりと過ごしています。

Smile食堂②



世代をつなぐ笑顔の食卓

Smile食堂は、幼児から高齢者まで、誰でも気軽に集える地域の交流の場です。世代を超えて食卓を囲み、食事や会話を楽しむことで、人と人とのつながりが生まれています。大人500円の協力金も地域の皆さまに喜んでいただき、活動を継続するための大切な運営費に繋がっています。地域の支えをいただきながら、笑顔あふれる居場所づくりを続けています。

今後の活動展開

今後は、地域とのつながりを大切にしながら、さまざまな形で子ども・地域食堂を展開していきたいと考えています。現在、地元高校生が授業の一環で栽培している【こうぎく】を活用したカレーを、子ども食堂で提供する取り組みを企画しています。高校生の学びを地域へ届けるとともに、地域のつながりを広げる機会となることを期待しています。

県内のこども・子育て当事者に向けて一言！

子ども達が安心して過ごせる場所、保護者の方が少しほっとできる場所が地域にあることは大切だと感じています。子ども・地域食堂は、食事だけでなく、人との出会いやつながりが生まれる温かな居場所です。困った時や誰かと話したいときに、気軽に立ち寄れる場所のひとつになれるよう、これからも活動を続けていきます。

嶺南スペシャルニーズチルドレン家族会

スペシャルニーズチルドレン

会長 福地 崇

家族会発足までの経緯

2020年8月に発足

前身となる活動として、2013年に気がかりのある子どもたちが気兼ねなく遊ぶことのできる場や、家族が集い交流できる場として「きやんでい」が発足。

その後、このサークルに医療的ケア児や身体障がい児など、さまざまな支援を必要とする子どもたちとその家族が加わり、子どもたちが健やかに成長し、地域社会の中で共生できることを目指すとともに、会員相互の親睦・協力や、療養生活全般に関する情報交換・連絡を行う場として、現在の嶺南スペシャルニーズチルドレン家族会となった。



第1回「ゴー！ゴー！バスハイク」の開催

大きなバスに乗って、「おおの天空パークOSORA」に行ってきたよ！

家族会員の他、市内の児童発達支援事業所に通う子供たちとその家族合わせて総勢51名の参加



参加者より「障がいのある子を連れて遠出が出来て嬉しかった」「きょうだいも一緒に遊べてよかった」「楽しかった！」などの声がたくさん聞かれ、子どもたちのとびきりの笑顔が見られた

障がいを持つ子ども・きょうだいだけでなく、保護者同士が交流ができる場となった

ホームページの作成(2026年内公開予定)

- ・同じ悩みをもつ保護者とつながるきっかけとなり、必要な方に家族会の存在を知っていただくため、ホームページを作成中
- ・会員と子ども応援ディレクターとで共同し、保護者のための道しるベサイト作成案や体験談の収集を行っている



今後の活動展開

- ・ホームページ、保護者のための道しるベサイト公開
- ・おもちつき体験

県内のこども・子育て当事者に向けて

子育てをしていると一人で悩んだり不安を感じる事もあると思います。でも一人で抱え込まないでください。周りには同じ思いをする仲間や支えてくれる人がいます。私たち家族会も、子どもたちだけでなく家族も安心できる存在でありたいと思います。障がいのあるなしに関わらず誰もが安心して過ごし、支え合えるインクルーシブな地域づくりに繋がっていくことを願っています

こども子育てラウンドテーブル 活動報告会

福井多胎ネット

代表 奥村 嘉 / 事務局長 太田 彩香



福井多胎ネット
FUKUI TATAI NET

福井の象徴・越前がにをモチーフに
多胎の子どもたちとその家族をつなぐ絆と愛のぬくもりを表現

団体概要

2025年9月設立。双子・三つ子など多胎児を妊娠中・育児中のご家族を、当事者（ピアサポーター）の立場から支える団体です。

多胎家庭が孤立せず、妊娠期から出産・育児期まで切れ目のない支援を行い、安心して子育てできる社会を目指し、福井県内で活動しています。



福井多胎ネット 1/2

主な活動内容①

多胎プレファミリー教室（福井県委託事業・多胎ピアサポート事業）

妊娠期からのつながりづくりを目的に、講座とグループワーク交流会を実施。第1回（2026年6月13日・敦賀市立看護大学）には49名が参加し、満足度80%、不安軽減87%という高い評価を得ました。
「先輩ババママの実際の苦勞を聞くことができて、心の準備ができた」との声も寄せられています。



こども子育てラウンドテーブル 活動報告会

主な活動内容②

多胎家庭交流会（家族写真撮影）

多胎家庭同士が気軽につながれる場として、季節イベントを兼ねた交流会を開催しています。

2025年12月にはクリスマス会とカメラマンによる家族写真撮影を実施。親子で楽しいひとときを過ごしました。



今後の活動展開

- 多胎プレファミリー教室の継続・拡充
- 行政・医療機関・地域との連携強化
- 写真撮影交流会・お譲り会など新企画の実施
- ピアサポーターによる傾聴体制の充実

主な活動内容③

ピアサポーター養成講座

福井県「令和7年度こども・子育てSMILE応援金」を活用し、多胎育児の先輩がピアサポーターとして活動できるように養成講座を実施し、1期生として14名のピアサポーターが誕生しました。1期生のうち4名の方が「多胎プレファミリー教室」で活動を行いました。



県内のこども・子育て当事者に一言！

多胎家庭にやさしい社会は すべての子育て家庭にやさしい社会

マイノリティかつ外出がしづらく、孤立化しやすい多胎家庭にとって地域社会とつながり、同じ仲間を見つけることが生きる希望になります。多胎家庭が安心して楽しく育児ができる社会をめざして活動していきます。

福井多胎ネット 2/2



越前市「みんなの食堂」

代 表 野尻 富美

団体概要

2016年4月に月2回の食堂活動からスタート。
『「地域で暮らす」、「地域で育つ」、を地域で支える』をテーマに、活動で出会った課題に向き合いながら活動を展開。

主な活動内容

『ゆるやかなつながり』

ゆるやかな活動を通して、ゆるやかにつながり、つながりの広がりが次の活動に。

それぞれが自分の「余白」を利用して参加するからこそ、ゆるやかに継続、「みんな」が主体的に活動。

みんなが「輝く」、みんなが「創る」 コネクト フェスティバル	制服のリユース活動	みんなの食堂	学習支援（オラバモス）	学習支援（B to F）	海外にルーツのある新一年生親子のための プレスクール「さくら」	ケアリーバーなどを 晴れ着で応援プロジェクト	ハンディっ子ママの 「にっこりの会」	おにぎり食堂 （武生高校定時制）	鯖定カフェ （鯖江高校定時制）
年1回	通年	月2回	月曜日 毎週	木曜日 毎週	月1回 8月～	通年	木曜日 隔月	月2回	月1回

主な活動内容



みんなが「輝く」、みんなが「創る」、 みんなの一日プロジェクト

CONNECT FESTIVAL!

だれにも「キラキラ」がある！
国籍、障がいの有無などに関係なく「みんな」がキラキラできる一日。そしてそれをきっかけに輝ける未来を想像できるように。
たくさんの応援を受けて！たくさんの人に出会い、広い社会を感じて、小さな達成感をこれからの未来に。

今後の活動展開

スタッフひとりひとりが、誰かが助けて欲しい時、相談したいときに浮かぶ「誰か」になれるように。

「助けて」、「応援して」の声には、近所のおじちゃん、おばちゃんが知恵を絞って一緒に考える。

今後の活動は、出会ったこども次第。

県内のこども・子育て当事者に向けて一言！

- ♪ デジタル、AIの進化で様々なことが効率的で便利になる世の中。
- ♪ 保護者だけが便利にならないように、こどもの立場、声を聞きながら。
- ♪ 小さなことでも「助けて」と言える相手を言える場所を見つけて！

一般社団法人DAISUKI

代表理事 奥井 麻結



団体概要

一般社団法人DAISUKIは、「“だいすき”があふれる社会へ。」を理念に、子どもたちが自分らしく学び、成長できる居場所づくりに取り組んでいます。運営する「ごきげん学園」は、福井市にあるフリースクール型放課後等デイサービスです。不登校や学校生活に不安を抱える子どもたちが、自分のペースで安心して過ごしながら、「好き」や「得意」を伸ばせる学びの場を提供しています。

主な活動内容①



「好き」や「得意」をみつけれられる活動

令和7・8年度は、ダンスやアート、ICT学習、農業体験、ものづくりなどの体験活動を充実。活動を重ねる中で、「人前で発表できるようになった」「自分から挑戦する場面が増えた」など、子どもたちの自己肯定感や意欲の向上につながっています。

また、保護者からも「家で笑顔が増えた」「子どもの成長を感じられるようになった」などの声が寄せられ、子どもだけでなく家族にとっても安心できる居場所となっています。

主な活動内容②



「できた！」を増やす多彩な体験学習

ダンス・ICT学習・アート活動・農業体験・マネー教育・ものづくり体験を通して、自信や自己肯定感を育んでいます。

特にダンスやアート活動では、自分を表現する楽しさを知り、「人前に出られるようになった」「笑顔が増えた」などの変化が見られています。

今後の活動展開

- ・地域企業との連携による職業体験
- ・多様な専門講師による講座の充実
- ・放課後等デイサービス機能の強化
- ・保護者支援体制の充実
- ・地域全体で子どもを見守るネットワークづくり

子どもたち一人ひとりが「自分はここにいていい」と思える居場所づくりを目指します。

県内のこども・子育て当事者に向けて一言！

あなたのペースで大丈夫。

ごきげん学園は、子どもたちが自分らしく過ごし、「好き」や「得意」を見つけられる居場所です。

一人で悩まず、まずは気軽に遊びに来てください。

みなさんと出会えることを楽しみにしています。

ASTRAIS(アストライズ)

代表理事 吉川俊作



団体概要

令和5年10月にオンラインメンバー5名で設立(現在14名)。
「eスポーツで星座のようなつながりを」をテーマに、イベントや大会を企画サポート。
令和6年からは福井を中心としたオフライン事業部を発足し、
福井県こども応援ディレクターと連携しながらeスポーツをきっかけとした
居場所づくりをイベントなどを通し活動中(令和7年度実績:7件以上)

主な活動内容①



「ふく育こどもフェスタ」

★活動概要

令和8年2月に福井県児童科学館「エンゼルランド」で開催されたイベントにてeスポーツ体験を実施

■「カニノケンカ」eスポーツ体験

仁愛女子高等学校eスポーツ同好会と連携
体験会運営を学生中心となり企画をサポートした

■「ふく育ダンス」オリジナル音ゲー体験

オリジナルゲームをプラネタリウムに投影しながら体験

★活動成果

県様式アンケートにて満足度100%を達成

★R7「こどもの居場所づくり拡大実証事業」委託

主な活動内容②



「FUKUeSPORTS FESTA」

★活動概要

県内企業・学校・行政・地域団体と連携し、こどもから
高齢者まで幅広い世代が楽しめる県内最大級の
eスポーツイベントを開催
競技だけではなく、体験会や交流ブース、学生ボラン
ティアの参加など、多様な人が活躍できる場づくり。

★活動成果

- ・ 約1,200名が来場し、多世代交流を実現
- ・ 学校・企業・行政との新たな連携が生まれた
- ・ 学生スタッフが主体的に運営へ参加し、地域との
つながりを深めた
- ・ eスポーツを通じた地域コミュニティ形成モデル

今後の活動展開

ASTRAISは、eスポーツを「遊び」ではなく、人と人をつなぎ、こどもたちの可能性を広げるコミュニケーションツールとして活用しています。

今後は、教育・福祉・行政・地域団体との連携をさらに深め、不登校や孤立など様々な課題を抱えるこどもたちも安心して集える居場所づくりを県内各地へ広げていきたいと考えています。

県内のこども・子育て当事者に向けて一言！

一人じゃない。安心して過ごせる居場所は、きっとあります。ASTRAISは、これからも“つながるきっかけ”をつくり続けます。

デジタル社会においてネットリテラシーや教育はかせなく、小学生よりも前に根付かせる必要があるかもしれません。イベントを通じこどもたちが、親が安心できる環境を目指します。

ご縁の入口

福井 ～ 嶺北・嶺南～地元密着でその方にあった良縁を繋ぐ
代表・仲人 福島 啓海(Fukushima Hiromi)

団体概要

福井県(嶺北・嶺南)、地元密着型。仲人が第三者目線で、その方の希望をなるべく考慮したお見合いを組み、パーソナルな婚活の伴走者として成婚まで一緒に目指します。成婚後は入籍にむけて、家と家との橋渡し役も務めます。



代表・仲人 福島 啓海

主な活動内容①



仲人による伴走型 婚活サポート

- ◎ 仲人が第三者目線で、その方の希望を考慮しお見合いを組みます
- ◎ お見合いの取り次ぎ～交際時のフォロー～プロポーズ成功(成婚)まで一貫してサポート
- ◎ 成婚後、入籍にむけて「家と家の橋渡し役」も務めます

成果:出会いからが大切。交際から、成婚への決断、その後の入籍へ伴走することでその親御さん、周囲の方、ご本人からもまた、縁結びの輪が広がっています。地域総ぐるみでの縁結びが大切だと考えています。

主な活動内容②



参加親子のみなさん(発表会当日)

みんなで完成させる お菓子の家プロジェクト

福井市・鯖江市・越前市の3会場で、ひとり親家庭の親子を対象にした無料体験イベントを開催。子どもたちが「楽しい経験」と「成功体験」を積み、「親子の絆」「仲間づくり」ができる居場所づくりを目指すプロジェクト。子どもたちが遊んでいる間、親御さんは「健康」「行政の支援制度」「将来のお金のこと」などをゆっくり学べることを目指しました。

開催概要 | ひとつの会場で3回開催(2月～3月)

- 【福井市会場】 總社 和田八幡宮 2/23(㊤)
- 【鯖江市会場】 うるしの里会館 3/15(日)
- 【越前市会場】 越前千代鶴の館 3/20(㊤)
- お菓子の家 完成&お披露目会 3/28(土) ショッピングシティバル

活動の成果

- 短い期間の中で、地域の協力者・企業・団体を多く募り、地域を巻き込んだプロジェクトへと発展させることができた。
- 参加者集めには苦戦したが、試行錯誤の中で徐々に参加者が増え、次回のコミュニティ参加へと自然につながった。親子はもちろん、コミュニティ内でのコミュニケーションが生まれ、集大成の発表会への参加にもつながった。
- コミュニティの場所を地域の特色を活かした場所(鯖江:うるしの里会館/越前:越前千代鶴の館)にすることで、子どもたちが自分たちの住む地域の伝統文化を自然と学ぶことができた。
- 集大成の会があることで、子どもたちが発表の経験や達成感を味わうことができ、とても楽しそうな表情が印象的であった。



▲ 福井新聞にも掲載

今後の活動展開

・現場で見えた課題

参加対象が親子ということで、当日の体調不良などによる欠席も目立ちました。1月の契約開始から2～3月のわずか2か月間の限られた期間では、参加状況に左右されず継続的なつながりを築くには時間が足りない、という課題を強く感じています。

・今後力を入れていきたい取組

- より長い期間のスケジュールで開催し、参加状況に左右されずコミュニティ内のつながりを構築していく。
- ひとり親家庭の親御さんが抱える子育ての不安など、簡単ではない悩みに時間をかけて向き合える関係づくりを継続的に進めていく。
- 「婚活支援」と「ひとり親家庭の居場所づくり」の両輪で、ご縁の入口から結婚・子育てまで切れ目なく寄り添える伴走者を目指す。

県内のこども・子育て 当事者に向けて一言！

子育ても、パートナー探しも、
「ひとりで抱えなくていい」

ご縁の入口は、地元・福井で顔の見える距離で
ずっと寄り添い続けます。

子どもは未来の宝！
だからこそ、地域総ぐるみの縁結び…地域の方が、
周囲の孤独やご縁に無関心ではない、あたたかな
福井県を目指しています。

— 代表・仲人 福島 啓海

オルタナティブスクール ちいさな学校ヒトツナガリ

代表・岡田彩乃

団体概要

子どもたちの個性や主体性を尊重した多様な学びを展開するため、公立学校以外の選択肢としての学びの場として、2023年4月に設立。子どもたちの自主的な学びを促すための、体験活動や自然活動を提供している。在籍児童数：9名(2026.7末時点) これまでに在籍した児童数の合計：15名



主な活動内容①



探究活動カリキュラム「自然活動」

認可外保育施設「森のようちえんいけだのそら」との合同活動 他

ヒトツナガリが提供する自然活動では、季節ごとの環境の変化を五感で学ぶことで、自然環境との付き合い方や生き物との暮らし、資源の活用を学びます。

県事業においては、認可外保育施設との合同活動を行い、未就学児との触れ合いを通じた学びもありました。

主な活動内容②



探究活動カリキュラム「ものづくり」

越前焼作家ふじのまさ代氏を講師に招いての越前焼体験 他

ヒトツナガリが提供するものづくりでは、日用品を作ったり、工作を行ったりします。

物の仕組みや成り立ちを学べ、芸術的な感性を育みます。

県事業においては、福井の伝統工芸である越前焼の制作を行い、郷土の歴史風土にも触れることが出来ました。

今後の活動展開

より充実した学びを提供するため、活動内容を更に発展させ、カリキュラムとして体系化していくことに取り組んでいます。子どもたちの居場所としての役割はもとより、ここでしか得られない学びを提供していきます。

また、スクールが担う社会的な責務を果たすためには、安定的、継続的に運営を行うことが大切であり、そのための経済的な工夫や各方面との情報共有が課題です。

県内のこども・子育て当事者に向けて一言！

当事者同士が、悩みや現状について勇気をもって発信し、お互いの意見に耳を傾け理解しようとする姿勢が必要です。

とにかく、まずは子どもをよく見ること。そして、その子が輝ける環境をつくること。

その上で大人は、子どもたちを信じ、見守り、任せてあげることが大切です。

子ども若者支援センター「坂井子どもの里」(通称:さかさど)



法人概要

非営利一般社団法人福インクル 代表理事 八杉有飛

福井県坂井市に拠点を置く教育福祉施設で、「誰ひとり取り残さないインクルーシブな社会」を目指して、子ども・若者および保護者や地域社会に

「**教育と福祉**」の観点から**専門的な支援**を行うことを理念としています。

坂井市内に3つ事業所があり、それぞれ「子ども若者と保護者の居場所」となるため【家庭福祉】【障がい児福祉】【子ども若者自立福祉】を強みに、家族の幸せな形を一緒に考え、共に伴走しています。



令和8年度 学校外サポートプレイス支援員

令和4年度より自主事業として「フリースクール」を運営し、延べ3,000人を超える「**不登校児と保護者**」の支援を行ってきました。**教育と福祉の連携を実践**し、学校復帰をした児童生徒が**15名以上**います。令和8年度より福井県義務教育課と連携し、「学校外サポートプレイス支援員」を当法人に配置していただき、アウトリーチ等のさらなる支援の拡充を図っています。



令和7年度 福井県ヤングケアラー支援事業

令和7年度より「ヤングケアラー支援事業」を福井県児童家庭課より受託、運営を行ってきました。延べ700人以上のヤングケアラー当事者の子ども・若者に会い、直接支援及び相談支援を行ってきました。特に**若者（18歳以降30歳未満）の支援**については、今までは支援スキームが少なく、**取り残される**場合も多く、本事業でやっとの思いで支援に繋がったケースもあります。

今後の活動展開

福井県は「学力体力全国トップクラス・黙掃文化」が印象的であり、全国から視察も多く、**社会的インパクトを教育福祉から創る基盤**があると考えています。

「**真のインクルーシブ教育**」を教育と福祉の観点から推し進め、日本全国で教育福祉分野で注目される県にしていきたいです。

子ども・子育て当事者へ

福井県の素晴らしさは、「焼き鳥方式」だと思っています。県全体を見渡した時、各市町には多くの子ども子育て支援を実施している団体・個人（鳥）が点在しています。それらが**連携協力し、協働体（串）**を創る流れが生まれており、それは他県では類を見ないことです。**身近に相談できる人**にまずは「話してみよう」ください。きっと何かが変わっていくはずですよ。